

異なる PET 装置による乳癌 FDG-PET 検査の定量性におよぼす影響の検討

●はじめに

FDG-PET 検査は乳癌などの診断に用いられており、撮影は薬剤の注射から 1 時間後に行うのが一般的です。時に 2 時間後に追加撮影をすることがありますが、性能の異なる PET 装置を用いると結果の評価がむつかしくなる場合があります。われわれは今回の研究で、複数の PET 装置での検査結果を標準化することでよりよい診断ができるようになる方法を開発したいと考えています。

●対象

本研究は平成 23 年 1 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日の間に古賀病院 21 に乳癌 FDG-PET 検査を実施された方 103 名を対象に研究させていただきます。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

●研究内容

まず、人形を使って 2 台の PET 装置の性能を調べ、結果が同じになるような換算表の作成を研究します。次に、すでに実施された乳癌 FDG-PET 検査のデータから、60 分後と 120 分後の 2 回の結果を測定いたします。2 回の検査結果から、換算表を使用しない従来の方法と換算表を使用する新しい方法を比較し、新しい方法で診断性能がどれだけ向上したかを検討しようと考えています。この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担は生じません。

●患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

対象者となることを希望されない方および個人情報の開示を請求される方は、下記連絡先までご連絡下さい。

●研究期間

研究を行う期間は平成 26 年 3 月 31 日まで。

●医学上の貢献

この研究によって異なる PET 装置の検査結果が同じ基準で評価できるようになれば、PET 検査の診断成績が改善するとともに、異なる医療機関の検査データを同じ基準で判断できるようになると期待されます。ひいては、患者さんの御負担も少なくでき無駄のない効率的な検査ができるようになると考えております。

【研究機関】

九州大学医学研究院保健学部門 ・教授 ・佐々木雅之
医学部保健学科放射線技術科学専攻・学部生 ・三笠翔平
医学系学府保健学専攻 ・大学院生 ・赤松剛
医学系学府保健学専攻 ・大学院生 ・谷口隆文
古賀病院 21・PET 画像診断センター ・センター長・吉田毅

連絡先：

九州大学医学研究院保健学部門 佐々木雅之
〒812-8582 福岡市東区馬出 3 丁目 1-1
TEL (092) 642-6746
E-mail: msasaki@hs.med.kyushu-u.ac.jp